<table>
<tr><td colspan="3">令和４年度（２０２２年度）　第３回　八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会</td></tr>
<tr><td colspan="2">日時・会場</td><td>令和５年（２０２３年）２月１３日（月）１５：００～１７：００
八王子市役所　議会棟４階　全員協議会室</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>委　員</td><td>黒岩亮子（日本女子大学）　榊原英資（市民委員）
西村陽子（市民委員）　齋藤健（八王子市民活動協議会）
豊田聡（八王子市社会福祉協議会）　山下晋矢（八王子市医師会）
小室崇司（八王子市町会自治会連合会）　和田清美（東京都立大学）
島﨑誠（八王子市民生委員児童委員協議会）</td></tr>
<tr><td>市職員</td><td>松岡福祉部長　青柳協働推進課長
柏田福祉政策課長　吉本高齢者いきいき課長
富山高齢者福祉課長　遠藤障害者福祉課長
浅岡生活自立支援課長　内田生活福祉総務課長
井上健康医療政策課長　渡邊保健総務課長
松本こどものしあわせ課長</td></tr>
<tr><td>説明員</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>吉元・小浜（株式会社アイアールエス）</td></tr>
<tr><td colspan="2">欠席委員</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">次第</td><td>１．開　会
２．議　事
（１）八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会における副会長の選任について
（２）「新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査」の調査結果について
（３）第４期八王子市地域福祉計画の方向性について
３．報　告
（１）はちまるサポート館（たて）の開設について
（２）その他
４．閉　会</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開・非公開の別</td><td>公開</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴人の数</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">資料</td><td>・次第
・第３期八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿
・【資料１－１】新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査 調査報告書（案）
・【資料１－２】意識調査の結果からみる八王子市の現状と課題
・【資料２－１】第４期八王子市地域福祉計画の方向性について
・【資料２－２】第３期計画における目標・活動指標の状況
・【資料２－３】意識調査における複合課題の状況
・【資料２－４】第４期地域福祉計画にかかる基本理念（基本目標）について
・【資料３－１】はちまるサポート館（たて）開設チラシ</td></tr>
</table>

会議の要旨	
	1．開　会 ２．議　事 （１）委員の交代及び副会長の選任について ・副会長に島﨑委員を選任 ・島﨑委員よりあいさつ （２）第３期八王子市地域福祉計画に関する施策の効果測定及び次期計画改定に向けた意識調査の調査結果について 【資料１－１】「新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査　調査報告書（案）」 【資料１－２】「意識調査の結果からみる八王子市の現状と課題」に沿って事務局より説明。
黒岩委員	【資料１－２】２ページのテーマ目標「①地域での活動に担い手として参加したことのある人の割合」についてだが、【資料１－１】５４ページの「(4) 地域活動に参加していない理由」にあるとおり、「仕事が忙しくて余裕がないから」を選んだ方が前回調査より減っていた。若い人が参加しないということに終始してしまいがちだが、コロナ禍における働き方改革で、在宅勤務の人が多くなったり、副業やリスキリング、ダブルトラックみたいで行こうという地域、仕事など、コロナ禍での変化をプラスに捉えて、余裕がない人が少し減っているところに機会を提供していこうということは今後重要になると思う。次の地域福祉計画で考えられるとよい。 【資料１－２】１ページの課題に挙げられている、はちまるサポート、重層的支援体制整備事業は今後重要になってくると思う。この課題に限らず、【資料１－２】の各テーマで挙げられている課題は調査から言える重要なものである。 【資料１－２】は、今の計画と照らし合わせて結果をまとめているが、調査報告書はそのような作りにはしないのか。【資料１－２】は調査報告書にどのように位置づけるのか。次の地域福祉計画に資料として入れると思うが、今の計画と照らし合わせた結果が報告書でもわかると良いと思う。 また、調査票の作りは良かったと思う。現行の計画について調査票に記載されており、はちまるサポートの説明もあった。調査を通してはちまるサポートを知る市民の方もいると思うので、はちまるサポートの記述をもっと厚くしてもよかった。また、調査報告書についても、はちまるサポートの記述を入れ込む余地があるのではないか。
事務局	はちまるサポートについては、今回新たに調査項目を設けた部分である。現行計画との整合という意味では、まだまだ練る必要があると認識した。元々、地域福祉推進拠点という社会福祉協議会の事業から端を発した部分がある。今回、重層的支援体制整備事業を八王子市で実施するうえで、今あるものをうまく活かしてはちまるサポートに転用した経緯がある。地域福祉推進拠点の時の調査結果との整合性を取ったうえで、内容を検討したい。また、調査報告書集計表に【資料１－２】の視点を組み込むことでわかりやすく伝わる部分もあるかと思うので今後検討したい。
小室委員	【資料１－２】２ページの課題について、「分野を福祉に限定せず、活動に参加したいという意識を醸成していく必要がある」の部分はその通りだと感じ

	た。コロナ禍の２年間、うちの町会でも趣味のグループを町内になるべくたくさん作ろうとしていた。仲間づくりをする中で、普段来ている人が来ないと、どうしたのかと話題になる。帰りに寄ってみると体調が悪くなっていたなど、日々の中での気づきが必ず出てくる。３６０人の町会だが、町会の理事などの５０～６０人と民生委員、シニアクラブなどで地域を見ていることになる。こうした趣味を通じて、お互いのことが自然とわかる関係性が生まれてくると感じている。
西村委員	今回の調査の有効回収数が1,205人で４０％とのことだが、前回と比べてどうだったのか。 また、【資料１－１】の２７ページの「年齢別生活状況」について、経済的に困窮しているという項目については、３０歳未満と３０歳代が多くなっている。１人世帯やシングルマザー、非正規雇用など色々あると思うが、家族の人数などリンクしている項目やデータがあるのかうかがいたい。 色々な方々がいる中で、誰一人取り残さない八王子市の地域福祉計画を作っていけたらよいと思っている。現状、コロナ禍で大変な状況になっている人たちも八王子市であれば幸せに暮らしていけるようになるとよい。また、今後市民に調査を行う際には、より多くの回答を集められるような方策を検討したほうがよい。 加えて、自由記載にもあったが、はちまるサポートを含めて、つくったものが知られていないのは残念だと思う。広報等で市民の皆様に知らせていくことに力を入れなければならない。次期計画に含めて考えていけたらよい。
事務局	前回、平成２８年度の調査は４２％だった。今回は Web 回答を可能としたので、できれば前回を上回りたかった。 家族構成と生活課題とのクロス集計について、現在データとしてはないが、分析することはできるためこれから行いたい。
山下委員	【資料１－１】２６ページの生活状況について、「あてはまるものはない」が７０％で大部分を占めている。調査からはわからないと思うが、追加調査等でわかるところはフォローしてもらいたい。 【資料１－１】３２ページの「今後の隣近所とのつきあい方」について、３０歳未満は相談したり助け合ったりしたいと感じている人が少ないことが分かる。 【資料１－１】４８ページの地域活動への参加の有無についても、３０歳未満や３０歳代で「はい」と回答した割合が３０％代と少ない傾向となっている。 【資料１－１】６９ページの福祉に関する講習や説明会への参加希望について、３０歳未満や３０歳代の関心が低い。若い方にどのように関心を持ってもらうかが課題である。 対策や要望として、早期教育が大切ではないかと考えている。将来を見据えた教育により、思想が広がったり、社会に対する考え方が変わったりしていくのではないか。長期的な視点で目標に取り組んでいただきたい。 【資料１－１】３５ページの新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響について、生活困窮や関係の希薄化、心身への影響など、ストレートでわかりやすい説明になっている。「その他」は割合が高くはないが、どのような回答があったのか分析できるのであればお願いしたい。医療の立場から言うと、入院がなかなかできない、発熱外来が受診できないなど、非常に多くの問題があったため、どのようなことを感じていたのか気になっている。また、福祉分野では、ショートステイやリハビリなどの介護サービスが全く使えなくなり、ご

	家族も困ってしまい、疲労困憊となる実態があった。どのような意見があったのか調べていただきたい。 【資料１－１】５８ページ、地域活動に参加したいと思う条件や内容について、東部地区と北部地区では、４３～４４％のかなり高い割合で「身近な場所で活動できる」と回答している。具体的にどのような場所があるのか、確認してもらいたい。 【資料１－１】８８ページの安全・安心について、街灯に関する不安が挙げられている。私も東日本大震災後に特に感じるが、街灯が本当に暗くなった。交差点の街灯も暗く、夜間の運転中、交差点の標識の文字が読めない。必要なところに必要な明るさを、八王子市として対策を立てていただきたい。
事務局	自由記述の分析について、報告書をまとめる段階で記述内容を加味した上で補正したい。 早期教育について、現在、福祉は地域や教育など、色々な分野で考えていかなければならない時代になっている。公共の福祉で考えた時に、教育分野との連携や学校の関与等も注視して策定に望まないといけない。次期計画ではそうした視点を大切にしていきたい。 若い層への周知が足りていないというご指摘はごもっともであり、数値がよくない部分は若年者層にリーチしていないことが見て取れる部分がある。例えば、福祉サービスの周知が今まで通り広報とホームページでおしまいということが一般的だったが、それはもう通用しない。市役所の業務のすべてに言えることだと思うが、施策を考えるうえで、周知をすることまで含めて綿密に考えていきたい。若年者層へのリーチについては、ＳＮＳ等を有効活用する仕組みを考えていかなければならないので、こちらも次期計画に向けた課題とさせていただきたい。
協働推進課 青柳課長	街灯について、道路事業部門で設置しているものと、町会・自治会が地域の安全・安心のために設置しているものがある。後者については、町会・自治会と相談しながら市で公有化していくことを予定しており、先ほどのご意見等を踏まえて適切に対応していきたい。前者については、随時ＬＥＤ化等しており、明かりの確保に取り組んでいる。
	（３）次期八王子市地域福祉計画の策定に向けた方向性について 【資料２－１】「第 4 期八王子市地域福祉計画の方向性について」【資料２－２】「第３期計画における目標・活動指標の状況」【資料２－３】「意識調査における複合課題の状況」に沿って事務局より説明。
黒岩委員	【資料２－１】９ページについて。担い手の確保や意識の醸成は福祉ではないところから巻き込んでいくことが大切だと思う。社会福祉学科にいると、福祉という言葉を使うと人が集まらない。本日も共創という言葉を使われているが、名前を変えてはどうかと必ず言われる。福祉を払拭するのは私たちの課題であるし、行政でも広く巻き込んでいくうえでは、まちづくりなど別のワードで言い換える必要がある。八王子市はせっかく大学があるので、ワークショップに参加してもらったり、ＳＮＳで発信してもらったり、今後そうしたしかけをしていくことが大切だと思う。 【資料２－１】１１ページについて。大きな考え方で、地域住民、事業者、福祉関係者、行政とある。第３期地域福祉計画では、地域住民が強調されており、市民力や地域力はすごく良いと思っていた。事業者が民間事業者だとする

	と、今までそこまで議論がなかったのに、急に入った感がある。川崎市で地域包括ケアシステムの委員をしているが、川崎市では地域福祉と言わずに、包括ケアシステムと名前を変えている。協議会には１００以上の企業が入ってくださっており、事業者も一緒にやっていくということでワークショップも何回も行っている。八王子市の場合、今まであまりなかったのではないかというところに急に事業者と持ってくると唐突感がある。ただ、大切なところではあるので、現状を教えていただきたい。
事務局	福祉関係者の中に従来の地域包括ケアシステムを構成するものは含まれると思っている。ここで事業者を出したのは、基本的な考え方を決めるうえで、全庁的な意見をもらう中で、これからは企業も社会課題を解決していくことをミッションにしなければならない。新しい資本主義の考え方では、福祉に民間企業がどんどん関与していくことが１つのビジネスチャンスになるという部分がある。冒頭お話をさせていただいた、分野横断的ということに関して、制限なく地域まるごと対応していくためには構成として企業は欠かせない。そのため、あえて事業者として出させていただいた。まちづくりそのものについて、各々が自分の役割をまっとうすることを考える、きっかけづくりにしていかなければならない。その中で企業の役割も掲げさせていただきたい。
黒岩委員	パートナーシップ協定を結ぶなどの具体策はまだないのか。
事務局	色々なやり方があるので、これから施策として考えていきたい。
和田会長	今の点と関連して、事業者と福祉関係者の中に民間福祉事業者も入ってくるのか。あいまいな部分が残ると思うので、今後お示しいただきたい。
事務局	定義をしっかりしなければならないと思っている。
和田会長	【資料１-１】９２ページに現行計画の目標が載っており、その下にめざす姿があり、具体的なものが記載されている。前回の計画策定時に「目標」について議論になり、紆余曲折を経て、地域住民に焦点を置いた。当時は市民力や協働など、広がりを持っていた背景があった。今回は、どのような目標に向かっていくのか。この点もご意見をいただきたい。
山下委員	重層的支援体制整備事業を主体としたまちづくりを行っていく考えがあるかと思うが、八王子市は緑が豊かで土地もたくさんあり、その中でモデル事業として、他の地域から来ていただきながら福祉を整えていく、ＣＣＲＣ構想のような考えはあるのか。
事務局	思いとしては、福祉だからと限定的に考えず、様々な視点で捉えていかなければならないと考えている。次期計画の中で施策として実施できるかどうか、全庁的な意見をいただきながら検討すべきと考えている。
山下委員	次期計画の目標は現行計画を引き継ぐ形になると思うが、八王子市は緑が豊かで高尾山もあり、浅川や多摩川もあることを考えると、「元気で活き活きと暮らすことができる、自然や暮らしが豊かなまちづくり」など、もう少し追加してはどうかと感じる。 【資料２-４】「第４期地域福祉計画にかかる基本理念について」に沿って事務

	局より説明
和田会長	新しい状況になっている中で、１０年前と同じなのはどうか。市の基本構想・基本計画と齟齬が生じないような目標設定が必要であることは理解したので、山下委員の案のように文言を変えることは問題ないのか。
事務局	問題ない。色々なご意見をいただきながら検討していきたい。
島崎副会長	地域包括支援センターについて、高齢者に接することが多いのだが、地域包括支援センターと言っても伝わらない。１５年ほど前に、公募で地域包括支援センターをわかりやすくする言葉はないかと募集した時に、ある人が「あんしん相談センター」と投票した。当時の地区の責任者がしっくりくると言っていた。そうした言葉があると、高齢者と接した時に、「あんしん相談センター」と言うと、何でも相談できるのかという会話につながる。高齢になると言葉がすんなりと入る人が少なくなるので、なるべくわかりやすくした方が良いのではないか。
西村委員	現行のものが良い内容だと思うので、基本の支えあいが市民の間でできると良いが、あまりにも変わらないのもどうかという気もする。山下委員のご意見のように、八王子市の良いところ、自然の豊かさや環境を含めたものが入っても良いと思う。今の世代にあった、子どもたちの未来につながるようにプラスしても良いかと思う。それが可能であれば考えていきたい。
和田会長	前回は「めざす姿」として、「“市民力・地域力”地域における支えあい」を強調した。今回もそうした工夫はできる。
小室委員	難しいが、八王子未来デザイン２０４０の概要で、基本構想の中に、「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」とすべて入っているので、これでわかると考える。
豊田委員	変えるには変える理由が必要。明確なものがあれば変える必要がある。今回、重層的支援体制整備事業やはちまるサポートが大きな流れの中での言葉だと感じている。変えるならそこを明確にしていくべき。明確な答えはないが、今の言葉の中に入っているようであればこのままでもよい。理由付けがどこまでできるか。
黒岩委員	大学の授業で学生１００人くらいに地域福祉計画のキャッチフレーズを持ってくる企画をするが、元気、支えあい、安心など、キーワードは共通するものになる。あえて変えなくてもいいと思う。それをどのように発信するかが大切である。豊田委員のご意見のように、明確な理由がなければ、このままでもよい。市民力・地域力は継続した方がよいと思うが、強調したいところをどのように発信するかに注力した方がよい。
斎藤委員	内容は良いと思う。新しい感覚で直すことができるならと思うがなかなか難しいと思う。
榊原委員	何を実現したいのかがわかりにくい。八王子市でなければできないことが入ってこなければいけないと思う。地方の自治体を見た時に、失礼かもしれないが、特徴のないまちは消えていってしまうと思う。まちで中高生が話している

事務局	姿を見た時に、この子たちは将来東京に行ってしまうなど、希望が持てないと色々なところで感じる。八王子市は中核市で人口が多い中で、そうしたことは感じないが、何もしなければいずれそうなっていくと最近感じる。そのため、目標については、もう少しもんでも良いのではないか。 　次回は、基本理念や計画に盛り込む内容など、大まかな骨格をお示しできればと考えている。ご意見等あればメール等でお寄せいただきたい。 ３．報　告 （１）はちまるサポート館（たて）の開設について 【資料３－１】「はちまるサポート館（たて）の開設について」に沿って事務局より説明。 質疑なし （２）その他 ４．閉　会
議事録署名人　和田清美	